

中間支援組織についての議論整理(小田原市市民活動推進委員会 平成25年8月15日及び8月30日)

平成25年10月18日
第4回会議
資料 1

| 目次項目 | 分類 | 意見趣旨 | 委員意見 | |
|--------------------|--------------|-------------------------------|---|--|
| 1. 中間支援組織に望まれる機能 | (1) 交流機能 | 交流を促す仕組み | 市民団体同士の壁。団体同士を組み合わせればもっと広く活動可能になり、交流出来るようになることがある。 交流を促すということについては、イベントで出来ているものもあれば、出来ていないものもあるということであったが、そういった交流を促す仕組みが新しい施設にある、あるいは施設を運営する主体が持つ役割としてあれば、3倍どころか4倍にも機能が高まり、皆さんが利用する中で市民活動にとって有用な施設になっていく。 | |
| | | 様々な主体との交流促進 | もっと具体的に同じような活動をしている団体が集まり、情報交換が出来る場があれば活動が広がる。 | |
| | | | テーマやジャンルで活動している団体間の交流や情報交換会についてはぜひ続けてほしい。 | |
| | | | NPOが、地域における多様な主体(市民、自治会など地域活動団体、企業、行政など)との交流を育んでいく環境作りが不可欠。 | |
| | | | 自治会と登録団体の意見交換会は、横のつながり、学びなどにより、活動に幅が広がっていると思う。 | |
| | | 様々な主体との連携・協働 | 各市民活動団体が地域活動において連携・協力出来るような場作りが必要。自治会と各市民活動団体との連携・協力が不可欠であると思う。 | |
| | | | 分野別に活動するだけではなく、自治会などの地域活動団体との連携、行政との連携も視野に入れて中間支援組織としての役割。 中間支援機能を「交流」に着目した場合、NPOと地域活動団体の一つである自治会との交流、あるいは、連携・協働の機会が、ある程度の目標を持って達成するような仕組み作りが求められるのではないか。両者の交流の機会、あるいは情報提供や連携・協力の橋渡しの役割を担っていただく組織として、この中間支援が果たす機能に大いに期待したい。 NPOは他のNPOとの連携はもちろん、行政・地域活動団体・企業等との連携・協働が重要。 | |
| | | (2) 相談・コーディネート機能 | NPO法人化支援 | NPO法人化の支援を行うことが求められる。 |
| | | | コーディネーターの設置 | 困りごとや相談に対するコーディネーターにも期待したい。 市民や団体の相談に乗り、他分野の団体を紹介したり調整してくれるコーディネーター役は必要。 全体を把握して信頼を得たコーディネーター力のある存在を期待したい。 |
| | 機能集約後の利点の確保 | | | 三つの施設の特色や良さをこれまで以上に大切にしつつ、さらに整理して、横の連携をとることで生まれる効果を意識し推進する組織。 |
| | (3) 情報の収集・提供 | 情報の集約化・一元化 | 何かを調べるのに情報がまとまっているのは助かるので、検索や問い合わせの機能を充実させてほしい。 「情報収集・提供・利用」は欠かせない。 情報の一元化と公開である。インターネットがこれだけ普及しているので、ボタンを押せばわかるというのが良い。 中間支援組織が情報を一元化してくれることも理想的。 NPO活動やボランティア活動に関連する情報を集約・管理・発信して行くことが必要。 | |
| | | | 情報発信の工夫 | 初めて何かやりたいという人が見た時に、「こんな人を求める」という情報。 |
| | | | 立地条件を活かした情報発信 | 駅前に設置されるという素晴らしい条件を最大限に活用した広報活動の推進力の強化。 |
| | | | 団体の情報発信(パネル展) | パネル展示は、ほかの団体が何をやっているかわかりやすく書かれている。私自身もパネル展示を見て、興味があった団体と関わることが出来た。 |
| | | (4) 学習・体験機能 | 学生向けボランティア機会の提供 | 夏に中高生ボランティアを募集し、それをとりまとめてくださっている。私たち団体が個々に学校やPTAに声をかけなくても、サポートセンターにボランティアの受け入れが可能と言えば、情報をまとめて広報していただけるので、これは素敵な事業だと思っている。 |
| | | | インターネット講座 | インターネット利用の講座をやっていただきたい。 |
| | (5) 調査研究・提言 | 中間支援組織(民間)からの提言 | ほかの中間支援組織では、行政や地域に対して民間の力で提言を挙げて、それが実行に移されているという実績がある。 「提言を行う」という役割が必要なのではないか。 | |
| | (6) 資金面の支援機能 | 基金の運用(情報発信) | 民設民営にするとお金の話が出てくると思うが、基金を橋渡し出来るような組織。 | |
| | | 基金による資金面の支援 | 行政からの出損や市民、企業からの寄附を原資とする基金による弾力的な資金面の支援の検討。 | |
| | 2. 運営のあり方 | (1) 運営に向けたポイント | 運営方法 | 地域社会における市民活動を主役に引き立てること(中間支援というものは主役ではなく、黒子に徹すべき)。 |
| | | | 市民活動の把握 利用者からの信頼 | 中間支援組織は、行われている市民活動を自ら把握し、活動をしている方々からの信頼を得て、その代表的な存在となることが大切。 |
| | | | 課題を解決する能力の保有 | 中間支援を行う者が一定の人材、お金を持ちながら自ら課題解決に向かって活動していくというミッションを持つべき。 |
| | | | 利用者の運営参加 | 施設を使う方たちが「私たちが活動している施設なのだ」という所有感を持って、運営に参加出来る仕組みが必要である。 |
| | | | ボランティアスタッフの参加 | 学生、主婦、シルバー世代のボランティアを置くこと(保育士や教師志望の学生も市内外に多くいるので、大学に広告を出すなどして、広く募集するのも良いと思う)。 |
| 民による運営 | | | 民による中間支援組織においても、行政が運営する場合と同様に、自らの発展よりも他の市民活動を支援することを本旨とする。 | |
| (2) 利用者へのアプローチ | | 運営委員会の設置 | 民で運営していく場合には、より良い場としていくため、運営委員会方式など関係者の意向を集約する方策が必要。 | |
| | | 興味を持ってもらえる機能 | 誰かがやっている、興味のある人のための機関というイメージから、機会があれば自分にも関わりのある、身近な機関となることで、今まで関心のなかった人も興味を持ち、活動につながっていけば、やがて沢山の人が巻き込んだ市民参加型の事業になっていくのではないかなと思う。 | |
| | | 学校との連携(小中学生への啓発) | 子どもたちの義務教育の場で学んでいく機会を作るなど、小中学生のうちから巻き込んで理解が広まれば、初めは支援される側として関わった人たちが、やがて広い意味で支援を支える人になっていくと思う。 | |
| | | 子どもも利用しやすい施設 | 子どもたちを受け入れられない中間支援はどこか中途半端な気がしたが、部屋の狭さを考えると子どもの声が響くので仕方ないのかもしれない。子どもがのびのび出来る環境としても新しい施設に期待する。 | |
| 3. 施設について | (1) 施設の設備 | 駐車場・部屋の広さ 子ども・障がい者の使いやすい部屋 | 駐車場があること、部屋の数や広さが十分であること、設備の充実、子どもが入りやすい部屋の造りなど多数ある。そして障がいのある方が自由に入出入り出来るようなエレベーターの充実、誰もが利用出来る場所になると良い。 | |
| | | 大人も子どもも使う部屋 | 図書室のような大人も子どもも利用出来る部屋 | |
| | | ピアノの設置 | ピアノが一台あればコーラスの練習やちょっとしたコンサートにも利用出来る。 | |
| | (2) 施設の利用条件 | 開館日 | 公の施設は月曜日がお休みのところが多いので、月曜日の活動に制約がある。 | |
| | | 利用料 | 新しい施設の使用料は有料になってくると思うが、無理のない適正な負担の設定をしていただきたい。 | |
| | | 利用時間 | 施設でよくある「午前」の枠、「午後」の枠というのがなく、1時間単位で利用でき、短い会合などでは、そういった使い方が出来るのは便利 | |
| | | 予約条件 | 現在のサポートセンターは地域に根付いてきたのか、いつも予約でいっぱい、希望の日に予約できないこともしばしばである。まるで競争のように先へ先へと予約する傾向にあり、これも利用する側の悩みの一つである。 | |
| | 4. その他 | (1) 市民活動交流センターの想定 | 機能集約・立地の利点 | 今まで以上に、子どもから大人までの一般市民が気軽に立ち寄り、知ることから始められるという効果が生まれる。それが市民活動の発展につながると思う。 今後についてだが、(仮)市民活動交流センターに機能が一括集約されることで、運営の効率が良くなると思う。 |
| (2) 行政と中間支援組織の関わり方 | | 行政内の調整 | 行政内の所管課と他の関係課の壁が一つ。私はこれについて、縦割りで情報もうまく伝わらないなど、なかなか活動がうまく回らなかったことがある。 | |
| (3) ボランティア活動 | | 非営利有償化 | ボランティア活動は、非営利有償化による市民活動への進化を遂げることも有効である。 | |